

Content from Global Kigyo

タイトル:

変革を牽引する企業

サブタイトル:

日本のセンサ・ゲージ技術のパイオニアである東京測器研究所は、海外展開に向けた意欲的な計画を進めています。

文章:

日本のセンサ技術企業である東京測器研究所は、建設、土木、製造業界で非常に重要な役割を果たす機器を提供し、日本国内のみならず、多くの海外市場でも大きな成功を収めています。

株式会社東京測器研究所の製品は、幅広い分野にわたって、重要なシステムやメカニズムに独自の検出機能を提供し、コスト削減、省力化、時間短縮に貢献しています。

同社の製品が最も活用されているのが、土木工事や建設の分野であり、その用途は建物、地形、道路、橋梁の安全性や寿命を監視することです。

現在、同社は長年培ってきたセンサ技術の専門知識を活かし、世界各地の新しい市場へと進出しようとしています。特にアジアの近隣国のインフラや自動車産業に強い関心を寄せています。

「当社は建設および土木分野に大きな強みがあり、これらの分野で韓国での展開を目指しています。また、現代・起亜自動車といった大手自動車メーカーにもアプローチをしています」と木村真志社長は述べました。

「韓国には大きな潜在市場があり、この市場に対応するために独自の販売子会社を設立し、ひずみゲージの販売に乗り出すことに決めました。この製品の韓国での売上を拡大することで、将来的には他の製品カテゴリへの展開も目指しています。さらに、韓国を拠点としてアジア地域での成長を加速させ、中国やインド、タイなどの市場にも拡大していくことを目指しています。」と木村社長は付け加えました。

同社は、1956年に世界初のポリエステルひずみゲージを発表し、従来のペーパーゲージに革新をもたらすなど、計測分野での重要な進展を担ってきました。その後、異なる温度や環境で使用できるように、さまざまな材料を用いた製品の開発が続けられています。

その他の主要なイノベーションには、リアルタイムで車両の性能データを取得できる自動車用センサ、亀裂検出センサ、測定ソフトウェアシステム一式、およびダムや奥深い山道などの遠隔地で使用される新しいバッテリー駆動の T-ZACCS デバイスなどが挙げられます。

アジア太平洋の「環太平洋火山帯」地域は、気候や地震の面で課題を抱えているため、災害防止も同社の事業が焦点を当てている重要な分野の一部です。

同社の革新的な計測製品は、大規模なインフラプロジェクトの建設に使用されているだけでなく、地盤

変動の監視、道路や橋梁のひずみや耐久性の検査にも利用されています。

「土木工事分野には新しい構造物の建設とメンテナンス改修の 2 つの主な分野があります。前者では、精密な計測が求められる研究機関によって当社のセンサが使用されることが多いです。橋梁などの既存のインフラでは、当社のセンサは構造物の老朽化に対して安全性を確保するシステムに使用されています。また、高速道路では、地滑りの危険に備えて斜面を監視するために当社のセンサがよく使われています」と木村社長は述べました。

同社の先進的な研究開発を押し進めるもう 1 つの主な事業は、日本の深刻な高齢化問題による労働力不足に対応するため、システムの自動化と遠隔操作化をますます発展させていくことです。

「当社のセンサ技術は、現場訪問を必要とせず、オフィスで集中管理できるシステムにより、人手不足に対する有効な手段も提供しています」と木村社長は付け加えました。